

池田高校 SSH 卒業生アンケート

高校2 2期生 Eさん

(聞き手 国語科 原田)

1 まず、あなたは今どのようなお仕事(生活)をされていますか。仕事の場合は、よろしければお立場もお教えください。

作業療法士

2 高校時代とはどういう研究をされましたか。

高校時代は薩摩鶏の肝細胞より DNA を抽出する研究を行っていました。学校にある設備を使って PCR 検査なども行っていました。

3 研究活動の上で、最も印象深かったことは何ですか。

理科の教科書で書かれていた内容を、自分たちが研究をする中で実際に行ったことです。例えば私たちは DNA の解析作業の中で、電気泳動を行ったのですが、教科書で書かれていることが実際に目の前で起こっていることに感動しました。

また、普段の生活ならば決して手に触れることのない実験用の機器に実際触れられたことも、印象に残っています。

加えて、私たちの研究班は DNA 抽出作業が上手くいかず、何度も失敗しました。そのたびにチームのメンバーや課題研究の担当の先生と話し合いを重ね、解決策を探り、トライアンドエラーを繰り返しながら研究を続けました。

4 そこで学んだことはどういうことだと考えますか。

研究計画を自分たちで立てながら活動したことによるマネジメント能力です。また、研究が上手くいかず、試行錯誤を繰り返したのですが、その試行錯誤を高校生の時にできたことは、大変よい活動だったと思います。

また、パワーポイントなどのプレゼンテーションツールの作り方、見せ方を学べたことも大きい学びでした。

5 SSH の学びにより、科学的な感性や好奇心、思考力は伸びたと思われますか。

研究発表の場で、自分たち以外の研究班や他校の研究発表を聞いたときに、自分の知らない科学の世界を知ることが出来ました。「こういう世界があるんだ」と好奇心を持つことが出来ました。

また、課題研究を行うことによって、物事を順序立てて考える思考力は強化できたと思っています。

6 プレゼンテーションやわかりやすく話す力や表現力は付いたと思いますか。

ついたと思います。SSH の活動の中では校外及び校内で多くの発表の場があり、発表の場に慣れることができたと思います。場数が踏めたため、人前で話すことに抵抗もなくなり、現在の職場での症例発表などの場に活着していると思います。また、高校の SSH で「見やすいスライド」を作るよう指導していただき、心がけていたので、今でも見せ方の工夫をすることが習慣になっています。発表での表現力の基盤は、高校時代にあると思っています。

7 高校時代が普通の教科学習だけで終わったとしたら、どう違ったと思いますか。

理科学習はテストのため、入試のためだけのものになっていたと思います。SSH での学びは学校での座学とは違うものでした。ですが、社会で直接的に役立つ力は、SSH で培ったプレゼン能力などでした。これは教科学習ではつかなかった力だと思っています。

8 SSH の学びは、あなたの理系選択に影響しましたか。また、研究したことで学習意欲は高くなったと思いますか。

理系選択には影響していません。もともと理系志望でしたが、理科への関心は高まりました。SSH は楽しかったですが、座学の理科学習とは違うものとして私は認識していました。

9 現在どのような生活を送っていますか。研究(仕事)はどんな様子ですか。

今の自分に役立っているところはどんなところと考えますか。

前述したとおり、作業療法士として勤務しています。対象は認知症の高齢者の方々です。

仕事内容と直接関係はないですが、プレゼンテーション能力を付けていただいたことは、現在にとっても役に立っています。また、課題研究で実験が上手くいかず、試行錯誤した経験も、現在の仕事に活着しているのかなと思います。

10 今後の池田高校のSSHについてどう考えますか。期待することなどを教えてほしい。

就職面接で、高校生活でやっていたことを話するときに、SSH のことを話させていただいたら、面接官の方にとっても興味を持っていただいたことがあります。SSH が人と話をするきっかけを作ってくれました。また、SSH は「研究」を知るきっかけになりました。大人になれば、自分から何かしないと研究に関わることができません。SSH では自分で行動できなくても、研究をするチャンスがくれました。このように SSH は高校生たちにとって豊かな学びを形成してくれていると思います。引き続き、この学びの場を続けていただければと思います。